

緑の風 FAX版



NO. 95 2019年3月11日 JR東労組

JR 東労組ホームページ

あの日から8年！ いまだ道半ばの“復興”！！

東日本大震災発生から、今日で8年。あれから目まぐるしい復興を遂げる一方で、被災地の現実には時間が止まっている所が多々あります。“復興”を発信するという東京オリンピック開催まで、明日で500日。しかしその一方で、取り残されたかのように、双葉町の面積96%は、いまだ帰還困難区域に指定されています。私たちは被災地の現実や、人々の想いにはせ、3.11のことを風化させないように、仲間と共に安全について議論をしましょう！

住民の思い乗せ「もう一度」

3月11日付 世界日報 三陸鉄道出向の運転士

東日本大震災で被災し運休が続いていたJR山田線の宮古―釜石間が第三セクターの三陸鉄道（本社岩手県宮古市）に移管され、「リアス線」として8年ぶりに復活する。震災前に山田線の運転士を務めていた板沢浩さん（55）は「住民の思いがこもった山田線をもう一度運転したい」と、自ら志願して三陸鉄道に出向。今月下旬の再開に向け、訓練運転に臨んでいる。



三陸鉄道 北里と南の盛岡まで一本につながり、路線の名称も「リアス線」に変更。163kmで三セクとして国内最長となる。23日には山田線部分で記念列車を運行。24日から営業運転を開始する。

新しい住宅が建ち始めた被災地をトリコロールカラーの列車が走ると、復興住宅のペランダや階切のそばから住民が手を振って迎えた。訓練運転の車両で横線レバーを握る板沢さんは「運転中は手を握れないから、心の中で手を握り返した。励みになる」と笑う。盛岡市の高校を卒業後、旧国鉄に入社した。岩手県の沿岸部を走る山田線は、20代の頃から運転士として、利用するのはいつも向かっていた。

8年ぶり復活、山田線

三陸鉄道 北里と南の盛岡まで一本につながり、路線の名称も「リアス線」に変更。163kmで三セクとして国内最長となる。23日には山田線部分で記念列車を運行。24日から営業運転を開始する。

震災の教訓を忘れず、
安全な鉄道を
共に創り上げよう！

東日本大震災8年

止まった時間 福島双葉町

今もなお福島第一原発事故の影響で全町避難が続く。全面積の96%が、住民で指定された双葉町。静まり返った商店街に風が吹き抜けて来ると、半壊した商店のガラスがカタカタ音を立てた。震災当日に児童たちが遊んだままの遊具が残る双葉町。ランドセルが置かれた教室には、今にも子どもたちが忘れ物を取り戻して来そうだった。

「また会えるといいなあ」

3月11日付 東京新聞


